

**製品名: Iba1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21499**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:2000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:17kD;Observed MW:17kD

**抗原情報**

遺伝子名	AIF
別名	AIF 1;AIF-1;Aif1;AIF1 protein;AIF1_HUMAN;Allograft inflammatory factor 1;Allograft inflammatory factor 1 splice variant G;allograft inflammatory factor-1 splice variant Hara-1;balloon angioplasty responsive transcription;BART 1;G1;G1 putative splice variant of allograft inflammatory factor 1;IBA 1;IBA1;interferon gamma responsive transcript;Interferon responsive transcript 1;interferon responsive transcript factor 1;ionized calcium binding adapter molecule 1;ionized calcium-binding adapter molecule 1;ionized calcium-binding

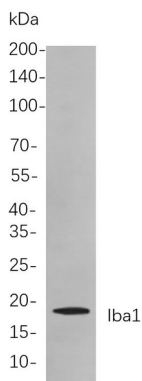
	adapter molecule;IRT 1;IRT1;Microglia response factor;MRF1;Protein g1;
遺伝子 ID	199.0
SwissProt ID	P55008
免疫原	ヒト Iba1 の合成ペプチド

## 背景

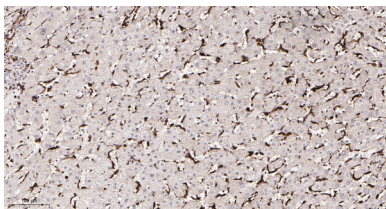
細胞局在: 細胞質。この遺伝子はアクチンとカルシウムを結合するタンパク質をコードしています。この遺伝子はサイトカインおよびインターフェロンによって誘導され、マクロファージの活性化、血管平滑筋細胞および T リンパ球の増殖を促進する可能性があります。この遺伝子の多型は全身性硬化症と関連している可能性があります。選択的スプライシングにより複数の転写バリエーションが生じますが、これらのバリエーションの一部については、全長およびコード配列の性質が不明です。[RefSeq 提供、2016 年 1 月]

## 研究分野

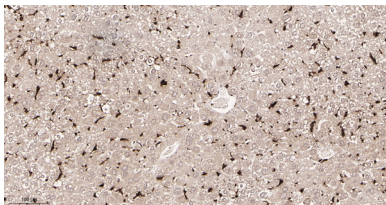
## 画像データ



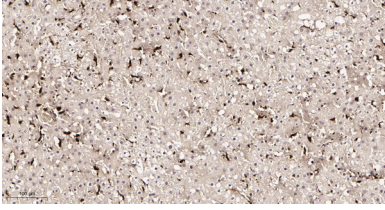
Iba1 ウサギ mAb を用いたマウス脾臓細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト肝臓組織の免疫組織化学分析。1、Iba1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス肝臓組織の免疫組織化学分析。1、Iba1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット肝臓組織の免疫組織化学分析。1、Iba1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。